



### 矢口中学校の教育目標

人間尊重の精神を教育の基調におき、人間性豊かで、  
民主的な社会を担うことのできる人間を育成するために、次の目標を定める。

気づき、考え、行動できる生徒を育てる。

○学ぶ人    ○思いやる人    ○鍛える人    ○はばたく人

#### 1 目指す学校像

「一人ひとりの生徒が互いを認め合い、同じ仲間として、楽しく学習・運動に取り組める学校」

- 成就感を育む学校
- 学習や生活の場にふさわしい学校
- 家庭と地域がともにつくる学校

#### 2 目指す生徒像

- 学ぶ人 進んで学び、知識習得や技能習得に取り組める生徒
- 思いやる人 互いの違いを認め合い、誠実で優しい生徒
- 鍛える人 心身共に健康で、向上のために努力する継続できる生徒
- はばたく人 適切な判断ができ、夢を持って、主体的に行動できる生徒

#### 3 目指す教師像

- 日々研鑽を積み、教員ではなく教師として自らを鍛える意識を持つ
- 個人として、専門的な技能・生徒への情熱・総合的な人間力を持った教師
- 個の力を認め合い、補い合い、協働して教育活動を行なう専門家としての教師集団
  - （1）自主的、創造的な教師～専門的な知識と実践的な指導力をもって、積極的な姿勢で指導に当たる教師 ～「教師の資格とは、自分自身が進歩していること」～
  - （2）心豊かな教師～生徒の目線に立って声を聞き、生徒へ情熱を持って導こうとする教師
  - （3）心身共に健康な教師～生徒の前で明るく元気よく、公私ともに充実した生活を送る教師

#### 4 本校の現状と課題

- （1）多くの生徒は、学校における規則を守り、自ら学習に取り組んでいる。授業規律もおおむね確立している。
- （2）一部の生徒に、基礎学力及び学習習慣が十分身につけていない面が見られ、発達面の課題を持つ場合もあり、個別指導や個別支援を必要としている。課題に対しては、全教職員で素早い解決の意識を持ち取り組んでいく。
- （3）昨年度まで、「キャリア教育」をテーマとして大田区立学校教育研究推進校に指定されたことを踏まえ、その研究成果を各教科・教科外活動など様々な教育活動でどのように活かしているかが課題となる。また、成果を追検証して、必要に応じて本校以外での実践につながるように、様々な機会を通して、外部の発表会や研修会で本校の実践を伝えていく。

- (4) 部活動に関しては多くの教員で部活動指導に関わる意識ができていますが、それぞれの生徒に応じた部活動の関わり方については不十分な点がある。また、技術の向上だけでなく、生徒の良好な人間関係作りの場とする必要がある。
- (5) 若手教員が多いため、授業力向上や学級経営力の向上を目指し、教師としての力量を高めるための OJT を推進が必要となる。また、生徒や保護者のアンケートの授業評価を参考に、若手教員が必要とされる力を明確にし、研修の機会があれば積極的に参加する必要がある。
- (6) 昨年度より、特別支援学級（知的固定）を開設したことにより、教育内容を整備し、特別支援学級での教育活動を新たに作り上げていくとともに、通常学級と特別支援学級の生徒同士の相互理解を深め、共同学習・交流教育を推進する必要がある。
- (7) 学校支援地域本部（スクールサポート矢中）に代表される地域からの学校支援は手厚い。
- (8) 保護者は PTA 活動や学校の教育活動に対して、おおむね協力的である。

## 5 方 策（「おおた教育ビジョン」に沿って、目指す学校像の実現を図る）

- (1) 未来社会を創造的に生きる子供の育成  
コミュニケーション能力や情報活用能力などの非認知能力の伸長を図るために、キャリア教育を軸とする横断的な教育活動を実施、「主体的・対話的で深い学び」につながる活動を含んだ授業を推進することによる論理的・科学的な思考力の育成、考えの違いや多様性を尊重する意識を醸成する特別活動の実施
- (2) 学力の向上  
大田区学習効果測定の実施、授業改善プラン作成、学習カルテの作成と学習カウンセリングの実施、英語カフェの推進、キャリア教育を通じた学習への動機付け、ICT 機器を活用したわかりやすい授業の展開
- (3) 豊かな心の涵養  
特別支援学級も含めた「仲間力」のさらなる拡大と意識付け、道徳教育の充実、子どもの心サポート月間、いじめ防止対策・問題行動対応の充実、不登校対策の充実、がん教育の推進、スクールカウンセラーの積極的な活用、ボランティアマインドの醸成
- (4) 体力向上と健康増進  
体力向上プログラムに基づき生徒の体力向上を目指す、「一校一取組」運動による体力向上、一年後に延期された 2020 大会に向けオリンピック・パラリンピック教育の推進
- (5) 魅力ある教育環境づくり  
授業評価の実施、矢中ミニマムの活用、ICT 機器活用の推進、OJT 推進（若手教員の指導力向上、新規採用教員の育成）、不登校対策スクールカウンセラー及び養護教諭補助、読書学習司書、部活動指導員・副校長アシスタントの活用
- (6) 学校・家庭・地域が一体となつてともにすすめる教育  
スクールサポート矢中の活動推進、学校支援コーディネーターの活用、あいさつ運動、安全教育、ボランティア活動、地域活動の活性化（地域行事、多摩川清掃ボランティア等への参加者増加）

## 6 教育活動の目標と方策

### (1) 学習指導・キャリア教育の充実

- ① 学習指導要領の主旨を活かし、知識の詰め込み型の授業ではなく、生徒の学習活動を活かした授業を展開し、将来にわたり、応用ができる転移可能な基礎的・汎用的能力を育成していくことを目指していく。また、ICT 機器を活用したわかりやすい授業を目指した授業改善を行う。
- ② 各教科のミニマム・スタンダードによる基礎・基本の定着を推進し、矢中ミニマムと授業改善推進プランに基づき、「主体的・対話的で深い学び」につながる、生徒の実態に応じた「わかる

授業」「魅力ある授業」に努める。また、東京ベーシック・ドリルの活用等による家庭の学習教育力の向上を図る。

③数学・英語の少人数指導を実施し、個に応じた授業を展開する。学習指導講師等を有効活用し、補充教室等も実施、学力向上を目指す。特に、外国語指導助手を活用した英語カフェや実施公費負担による実用英語技能検定などを行う中で、英語に対する学習意欲を高める。

④「豊かな心」の育成に努めるため、道徳、特別活動や学校行事を通して、通常学級の生徒はもちろん、特別支援学級と通常学級の生徒同士の交流を深め、お互いを尊重し認め合う「仲間力」を身につけ、活動に取り組ませる。

⑤様々な活動の後のシェアリングなどを通し、生徒に「仲間力」を意識させ、いじめを黙認しない人間関係を構築する。

⑥キャリア教育を推進し、体験活動を通して、生徒の社会性やコミュニケーション能力を育てて、自らの将来を切り拓く意欲を持たせ、様々な取組を通して、教育活動の中で非認知能力の育成に取り組み、キャリア・パスポートの導入で生徒に活動のまとめをさせることで、キャリア・プランニングの意識を育て、学びに向かう力を養っていく。

⑦ボランティア活動を通して、地域貢献の意識を高め、オリンピック・パラリンピック教育の視点からのボランティアマインドの醸成も併せて図ることで、シチズン・シップを育む。

⑧「一校一取組」運動として国語でブックトーク等を取り入れるなど、読書活動の連携を図り、朝読書、読書学習司書を活用した学校図書館の充実を通して、読書活動を活性化させ、生徒の言語環境の向上と読解力の向上を目指す。

⑨ ICT 機器の授業への積極的な活用により授業改善を図る。

⑩「一校一取組」として、授業前のランニングと補強運動を実施するなど、体育の授業を通した体力の向上を目指す。

## (2) 生活指導の充実

①全教職員の共通理解のもとで、生徒の規範意識を高める組織的な生活指導を推進する。

②基本的な生活習慣の定着。あいさつや正しい言葉遣いを身につけた生徒を育成する。

③生徒の「仲間力」を培って、より良い生徒集団を形成し、所属意識や自治意識を高める。

④不登校生徒の解消に努める。登校支援コーディネーターを核として、適応指導教室等の関係諸機関と連携した支援を積極的に導入する。

⑤スクールカウンセラー及び支援員等と連携を図り、指導の充実を目指す。

⑥小中一貫した指導を推進し、小学校との連携を深め、同一の視点での生徒指導を目指す。

## (3) 地域・家庭との連携の充実

①地域や保護者が協働して、生徒の健全育成を図る好ましい関係を築くため、学校公開の実施や各種通信の発行・ホームページの充実により情報発信に努める。

②PTA 活動や地域のイベントに積極的に関わり、家庭や地域の教育力向上に寄与する。

③保護者等の学校評価等を実施し、学校外の意見を聴取することで、教育活動の改善に努める。

## 7 目標達成のために矢口中学校の教職員として、大切にしたい視点

(1) 人権を尊重した生徒への適切な指導～体罰と不適切な指導を根絶する意識を持つ。人権は正しい言葉づかいからという意識で、生徒の人格を尊重して、必要に応じた言葉遣いを心がける

(2) 生徒を見つめる視点は複数で～生徒の良さの発見・同僚との意見交換を大切にする。

(3) 生徒の問題行動は「助けてほしい」のサイン～問題行動の裏には、生徒の悩みや本人が解決できない問題が潜んでいるという視点を持つようにする。

(4) すべての場面で生徒からの学びを大切に～「我以外皆我師」の精神、生徒との活動の中で研鑽を積む。

- (5) 優しさの中の厳しさを～「やってはいけない行動と本来行うべきだった行動」を生徒に分かりやすく指摘し、生徒の生活行動改善を促す。特にいじめは絶対許さないという態度は堅持し、生徒に接する。
- (6) 日常的に生徒の様子を保護者に伝える機会を増やし、些細なことでも早めに保護者に連絡～密接な連携と気遣いで問題の発生を防ぐ。
- (7) 些細なことを大切に～「何か変だ」という教師の勘を大切にする。
- (8) 自らあいさつを実践し生徒に範を示す～率先垂範を実践する。
- (9) 生徒とのコミュニケーションの重視～傾聴する姿勢、カウンセリングマインドを持つ。
- (10) 教職員自身が身だしなみを整え、T P Oに応じた服装に気遣いを～生徒にT P Oの大切さを教える範となるようにする。
- (11) 話し合いなど生徒の活動を増やし、教え込まず、生徒に学びとらせる授業を～授業導入時のめあての提示などの工夫を行う。
- (12) 校務に対してチームワークを大切にしながらも、受け身ではなく、自分から提案・発信をする姿勢～自分からのアクションを心がける。
- (13) 業務の精選を意識し、効率良く校務を処理することで、自身のライフ・ワーク・バランスの保持に努め、心身の健康も保持するように心がける。